

NO.106 REGULAR CONCERT

GROOVIN' HIGH!

6.8 (SAT.)
AT
YOMIURI
HALL

MEIJI UNIV.

HARMONICA
SOCIETY

777

— ご あ い さ つ —



部長 北島 忠男

今年も、初夏の装いのなかで、明治大学ハーモニカ・ソサエティーは、本日、第106回定期演奏会を開催することとなりました。

ソサエティーでは、3月に14名の卒業生を送り出し、4月には20数名の新入生を迎えました。最近のソサエティーでの特徴のひとつは、何といても、女子部員が増えたことでしょう。現部員67名中、女子部員が23名もおります。大学入学者での女子の増加、クラブ活動での女子の活躍、そして、卒業式では多くの学部で女子学生が総代として卒業証書を受け取っています。折から国会では男女雇用均等法が成立しましたが、学園での女子パワーは大躍進中といえると思います。ソサエティーでの女子の進出は、その音楽にどんな影響をあたえているのでしょうか。

今宵の定期演奏会は大世帯になったソサエティーの演奏会となりました。これもソサエティー躍進のひとつのあかしと思います。これからも、ソサエティーが益々発展の道を歩むことが出来ますよう、ご来場の皆様のいっそうのご支援を心からお願い申し上げる次第でございます。



OB会会長 布施 荘兵衛

今日より40年前の終戦直後の昭和20年8月頃は、東京は殆んど焼野原となり、住むに家無く、食料も不足であった時代だから学生達の登校少なく従って当ソサエティーも部員僅か7名の惨状を呈した。これでは演奏活動も出来得ないから解散せんとする事態になったが、OB達の熱心な激励に依り辛じて解散は免れた斯る時に、一人の救世主が現れた。その名は石川登(故人)君と云って、自ら指揮者兼監督となり全精力を注いで再建に邁進した結果、どうやら往年の姿に近づく様になったのであった。その後、都下各大学のハーモニカコンクールが開催された第一回目の昭和27年、当部も参加、目出度優勝。以下昭和31年度までのコンクール期間中は、毎年優勝の栄冠に輝いた。その後、コンクールは中止となり、現在はジョイント・コンサートに変わったのであった。当部も世界最古の歴史と、輝ける伝統を保持して来たのであるから、今後は各自一層の精進を期待する次第であります。本日は御来場の皆様には御多用中の処御来光の栄を賜り厚く御礼申し上げます。

明治大学マンドリン倶楽部

明治大学ハーモニカソサエティー第106回定期演奏会が盛大に開催されますことを部員一同心よりお慶び申し上げます。貴クラブも我がクラブと共に60年以上の伝統を誇る明治大学を代表するクラブとして、音楽に集う者にとって、目標とするクラブであります。また、その伝統を受け継ぎながらも常に新しいサウンドを追求するチャレンジ精神には、いつも感心させられるばかりです。また音楽が多様化し、少数でのサウンドが流行する時代に、団体で一つの音楽を追求することは、我々にとりましても、とても励みとなっております。最後になりましたが、青春の全てをかけ、絶ゆまぬ努力の成果を十分に発揮され、本日の演奏会で必ずや聴衆を魅了し盛会に終わり、今後より一層御発展されることを心よりお祈り申し上げます。



幹事長 渡部 安男

本日は、お忙しい中、第106回定期演奏会において頂きまして、誠にありがとうございます。今年も多数の新入部員を迎え入れ、新入部員にとっては、今宵が初舞台です。多分みんな、あがっていることとは思いますが、苦しい日々の練習にもついてきてくれたことですので、頑張ってくれることと思います。

さて、今宵のテーマである「GROOVIN' HIGH」について少々述べさせて頂きますと、この言葉は俗語でございまして、「気分よく、のる」という意味です。私達の趣旨としては、皆様がこの気分になって頂ければ大変うれしく思います。

最後にはなりましたが、この演奏会の開催にあたり御支援、御指導を賜りました諸先輩、関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

